

売薬の意匠あれこれ ガラス看板—その1

一般社団法人 北多摩薬剤師会会長 平井 有(ひらい・たもつ)

今年は令和7年(2025)ですが、昭和からみると「昭和100年」にあたります。この連載では主に昭和時代に薬局・薬店で使われた今では見られなくなった広告媒体を紹介してきました。それらは主に豪華な金看板をはじめとする木製の看板や珐瑯看板な

どがあり、現代では見られなくなった(使われなくなった)商品も登場し、そのような観点からはこれらの看板は薬や薬局関係の文化史をたどる貴重な資料ともいえるものです。今回は現代では全く見られなくなった「ガラス看板」を紹介します。



①



②



③



④

①「結核に理研 ビタス錠」

日本に古くから伝わる伝統工芸に風鈴がありますが、そのうちガラスを吹いて作るガラス風鈴の一つに「江戸風鈴」があります。これは膨らませて作られた風鈴の内側から風雨で絵柄が痛まず長持ちするように絵付けをしたもので、つまりは外側から見てきちんとした図柄となるように熟練した職人が内側から絵を描いてゆくものです。

今回登場のガラス看板も字や図柄は表面のガラス面ではなく裏面から描かれており、つまりは逆文字、逆さ図で裏側から描かれています。そのような予備知識を持ってこれらの破損することなく残っているガラス看板を見ていただければと思います。

昭和時代は国民病、亡国病とも言われた「結核」が多く、前途ある若人の命を奪い苦しめてきました。一方「理研(理化学研究所)」は高峰譲吉翁の提唱で大正2年(1913年)に設立された基礎科学総合研究所で、この看板は結核の治療に用いられたビタミンB2とB6の複合剤「理研ビタス」のガラス看板です。

②「長寿錠」

「梅毒浄血・血圧降下・中風予防と治療」に効果をうたった「長寿錠」のガラス看板です。「梅毒」「中風」いずれも現代医学でいうところの「梅毒」「中風」とはずれがあり、症状(症候)を主体としたものであるとご理解ください。

なお錠剤のパッケージや瓶の絵は裏面から描いたものではなく裏面から絵を貼り付けたものです。

③「メンソレータム」

アメリカ人宣教師ウィリアム・メレル・ヴーリスによって伝えられ、大正9年(1920年)に設立された(株)近江セールズにより輸入販売された『メンソレータム』は、全国津々浦々の薬局・薬店に置かれ、家庭常備薬として多くの人々に愛用されました。メンソレータムの名前はメンソール(Menthol)とワセリン(ペトロレータム:Petrolatum)の合成語に由来するものです。

④「カルモチン」

「カルモチン」(武田薬品工業(株))とは催眠薬「プロム(モ)ワレリル尿素」の商品名で、他には「プロバリン」などの名前の商品もあり、太宰治が自殺の目的に服用したり、芥川龍之介(昭和2年没)や金子みすゞ(昭和5年没)が自殺に用いた睡眠薬として有名です。

アメリカ合衆国ではプロムワレリル尿素を含む臭化物は医薬品として販売が禁止されているにもかかわらず日本では最近まで一部OTC薬品で使用されていた稀有な薬物で、薬物依存や離脱症状を起こしたり、オーバードーズ(過量服用)の危険性ははらんでおり、薬物乱用や自殺対策の専門家からは、理解に苦しむ。論外のこと。といったコメントが寄せられることもあった薬物です。